

活動成果報告書

平成26年度（第18回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

発達が気になるお子さんと保護者のためのサロン「みなみん」の取り組み

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）

福岡市南区保健福祉センター 地域保健福祉課

代表者：入澤 由三子

勤務先：福岡市南区保健福祉センター

所 属：地域保健福祉課

所在地：〒815-0032

福岡県福岡市南区塩原3丁目25番3号

TEL：092-559-5133

FAX：092-512-8811

E-Mail：chiikifukushi.MWO@city.fukuoka.lg.jp



◇活動方針

【区の概況】

福岡市南区は、福岡市の南部に位置し、総人口248,830人(平成25年9月末現在)、出生数2174人(平成24年)、閑静な住宅街や大規模団地を含む転出入の多い住宅地域である。

【事業目的】

発達障がいの診断を受けたり、発達が気になる子どもを持つ保護者は、子育ての悩みや将来の不安等を抱え、公民館等で開催されている子育てサロン・育児サークル・こどもプラザでは、他児との発達の違いから孤立しやすく参加しづらい状況に陥りやすく、療育通園以外に行き場がないのが現状であり、実際に子どもの療育に悩む母親から「南区に発達障がいの子どもと保護者が集える場所を作ってほしい」という相談を受けた。また、福岡市では平成24年度より、発達障がいや虐待早期発見のために乳幼児健診の間診票の変更を行っていたが、診断されないまでも心配と感じる保護者の受け皿がなかった。

同じ悩みを持つ保護者同士が気軽に集い、情報交換や専門スタッフに相談することができる場を提供することにより、育児不安の軽減や虐待防止を図ることを目的とした。また、交通の利便性を考慮し、福祉や諸手続き等の窓口も利用できるよう保健福祉センターでサロンを開催。保健福祉センターは区役所とも隣接しており区民の利用が多いため、この取り組みが区民にも周知され対象者へのPR効果に加え、発達障がいへの理解者を増やすことも目的としている。

活動成果報告書

◇活動内容

25年5月より、月1回開催。保健福祉センターの保健師2名を担当とし、保護者の専門的な相談に対応するために臨床心理士1名を、また、遊びや見守りを充実させるために療育経験のある保育士2名を配置した。臨床心理士と保育士については区内大学の心理学科より紹介を受け、心理学科の学生をボランティアとして3名派遣してもらっている。

また、運営委員会を設置し、大学教授、区内の児童発達支援センター所長、区社会福祉協議会事務局長、民生委員児童委員協議会主任児童委員代表、他区サロンの社会福祉士・臨床心理士、保健福祉センター所長、保健福祉センター関係課で委員を構成し、担当課とサロン従事スタッフ（臨床心理士、保育士）を事務局としている。運営委員会では、運営に関する助言をもらい、意見交換を行っている。

◇平成25年度実施内容

●大学との打ち合わせ：大学にて2回実施し、随時、教授とメール・電話にて連絡

（運営についての協力依頼、スタッフの紹介、運営についての助言等）

●サロン

対象者：発達に気になる、または発達障がいのある市内に居住する就学前の子どもと保護者

開催回数：1回/月、10:00～12:00（時間内 入退室自由）

場 所：南区保健福祉センター

担当者：保健師2名、臨床心理士1名、保育士2名、大学生ボランティア3名

内 容：自由遊び、個別相談、終了アンケート

- ・初回参加者は受付票（子どもの気になること、療育通所の有無、スタッフに気を付けてもらいたいこと、これまでの経過等）を記入

- ・個別相談希望者は受付にて相談票を記入・提出

- ・サロン終了後は毎回簡易なアンケートを実施（参加しての感想や意見を記入）

●運営委員会：3回開催（平成25年4月、8月、平成26年2月）

●成 果：終了時アンケートから、「遊びに行ける場所がないためありがたい。」、「子どもの行動も気にせずに伸び伸び過ごせた。」、「相談して気持ちが楽になった。」、「親同士で交流できた。」等の感想が91%を占め、親子の居場所づくりとしての役割を果たし、ニーズに合致した事業であることがわかった。また、学識経験者や療育に携わる人材を委員とした運営委員会を実施することで、サロンの内容や会場の安全管理、運営についてのアドバイスをもらいサロンに反映することができた。

◇平成26年度実施内容

●サロン

対象者、開催回数、担当者は変更なし

内容：26年度より、保護者に遊びを通して子どもとの接し方を学んでもらうことを目的に、担当保育士による親子遊びを毎回実施した。

●運営委員会

●みなみんプチ講座：7月と9月の2回実施

対象者：これまでにサロンに参加したことがある保護者

活動成果報告書

場 所：南区保健福祉センター

内 容：担当臨床心理士による座談会風の講座

- ・ 毎回希望者に臨床心理士の個別相談を実施しているが、相談の多い事項を臨床心理士と担当保健師が整理しテーマを決定

1 回目「就学年齢までのこどもの発達と関わり方」

2 回目「就園・就学に向けての準備」

※ 講座開催時は担当保育士、大学生ボランティアによる託児を実施

●アンケート調査

目 的：①発達が気になる、または発達障がいのある子どもを持つ保護者にとって当サロンがより身近で役立つ場であるために、内容や運営についての意見を把握する。

②発達が気になる、または発達障がいのある子どもを持つ保護者の悩みや困りごとを把握し、今後どのような取り組みが必要であるかを検討する。

対 象：平成 25 年 5 月の開設時から、サロンに 1 回でも参加したことがある保護者全てとする。

調査項目：保護者自身の体調、必要とする支援、発達障がいの診断の有無・周囲の理解、サロン参加のきっかけ等

調査方法：郵送調査法

回収率：54.8%

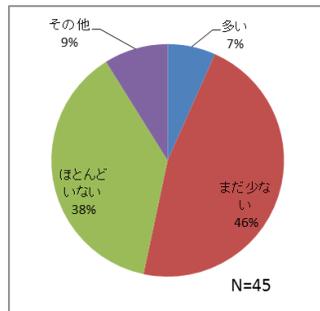
●成果

①26 年度より取り入れた親子遊びでは「こどもが楽しそうにしているので嬉しい」「こどもとの遊び方を知ることができた」とおおむね好評であった。

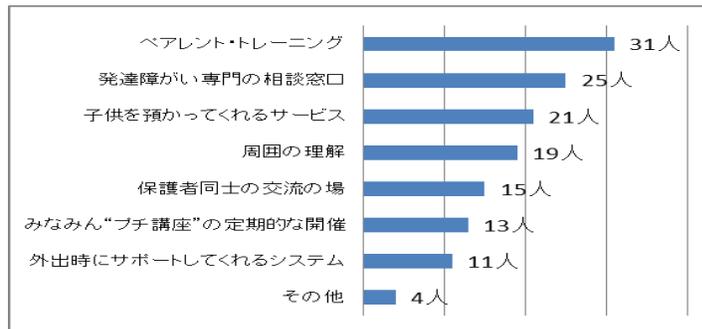
②プチ講座は、座談会風としたことで参加者が経験談を多く語って頂いた。参加者同士、思いの共有ができ、今後の就園活動の参考になったようだった。

③アンケート調査からは、発達障がい周囲で理解されていないと感じている方が多いことや必要としている支援の内容がわかった。

☆発達の遅れや障害についての周囲の理解



☆必要とする支援（複数回答）



◇今後の計画

・ 好評である保育士による親子遊びを継続していく予定である。また、アンケート調査で「必要とする支援」の上位であるペアレント・トレーニング的な要素を取り入れたプチ講座を 27 年度に実施する計画を立てている。

・ 発達の遅れや障がいを持つ子と保護者が生活しやすい社会を目指し、啓蒙活動にも取り組んでいきたい。